

平成19年3月23日

## 平成 18 年度 継続評価書

研究機関 : 日本電信電話(株)、(株)日立製作所、東京大学、大阪大学  
研究開発課題 : ユビキタスネットワーク認証・エージェント技術の研究開発  
研究開発期間 : 平成 15 ~ 19 年度  
代表研究責任者 : 須永 宏

総合評価 : 条件付き適

(適 / 条件付き適 / 不適の3段階評価)

(総論)

付記する条件を満足することで、引き続き推進することが適当。

(コメント)

- 最終年度に向けて、特にビジネス化に向けた成果の取りまとめと予算に工夫が必要。
- 大学における実績、成果は十分評価できる。一方で、企業の成果については、最終年度に向けた実用化の計画が不明であり、明確な説明が求められる。

## (1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCDの5段階評価) : 評価A

### (総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果等が認められる。

### (コメント)

- 実証実験を前倒しての実施やオープンソース化が予定より進捗している。
- 他のグループ(超小型チップ、Ubila)と連携し、ビジネス化へ向けた展開を期待する。
- アルゴリズムなどの実証など以外は、エージェントベースのシステムがどのように計画仕様通り、実現できているか検証が難しい。検証法を提示してほしい。
- 一部、計画よりも前倒しで実施した部分がある。

## (2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCDの5段階評価) : 評価A

### (総論)

予算計画書あるいは適切な理由に基づく支出変更理由(以下、予算計画書等)に則り、効率的かつ適正な執行が行われている。さらに、資金管理などの面で優れた取り組みが認められる。

### (コメント)

- 当初予定よりも少ない金額で実施している。
- 研究資金の使用状況説明が不足しているので、十分理解できる説明を心がけてほしい。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

(総論)

実行可能かつ効率的な計画である。

(コメント)

- 研究所内だけでなく、事業部門とも連携してビジネス化に向けた展開を期待。
- 他のプロジェクトとの連携を通じ、ビジネス化への道筋をつけることを期待。
- 夏から開始する実証実験が引き続き企画されており、評価できる。
- 最終年度に近づき、本成果をどのようにビジネス化するのかという質問に十分応えられるよう、計画を更新すべきである。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

(総論)

おおむね、効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。さらに、経費節減や執行管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 特に実証実験に関係する予算に関して、当初の予定よりも少なく見積もられており、効率的な執行計画となっている。
- 企業独自の研究と本委託による研究との区別を常に念頭に置き、説明できるよう努めることが必要。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

(総論)

適切な実施体制が組み立てられており、計画通りの事業進捗が見込まれる。

(コメント)

- オープンソース化等について、グループ内における大学と企業の連携が必要。特に、大学との成果と連動する成果について、共願特許や共著論文などを期待。
- 他のグループとの連携の試みに重点を置き、実用化に向けた取組みを引き続き期待。